名張市と伊賀市の散策

2022.5.26～27

久しぶりに一泊の旅に出かけました。母のショートスティーに合わせて、新緑の楽しめる赤目 48 滝に決めました。紅葉で知られたところなので、初夏の新緑も素晴らしいだろうと思い決めました。朝の１０時３０分頃に出発しました。

東名阪高速道路で大渋滞に巻き込まれる

コースは伊勢自動車道久居インターを出て、国道 165 を走ればほとんど一本道で分かり易く気楽に考えていました。東名阪高速道路は工事中で渋滞予測がされていましたが、さほど気にもしていなかったのですが、これが命取りとなり大渋滞に巻き込まれてしまいました。これまで高速道路でこんなにひどい目に遭ったのは初めてです。御在所 SA の少し先から亀山 PA の手前までノロノロでした。工事区間を１車線閉鎖するためにかなり手前からノロノロになってしまうのです。

工事をやらないわけにはいかないのでやむを得ないとは思いますが、こんな時は高速料金の割引などをしても良いと思います。お昼は伊勢道に入ってから安濃 SA でうどんを食べましたが、何を食べようかとなっても、やはり普段食べなれているものを選択してしまいます。そして、久居インターを出て国道 165 をまずまず快調に走りましたが、かなりの山道で上り下りの起伏は相当なものでした。ナビを使わずとも迷うことなく赤目口から左折して 48 滝に向かい、午後 1 時半ころに到着しました。

赤目 48 滝は散策禁止に!!

到着すると駐車場にはやたら「入山禁止」の張り紙があります。遊歩道が 4km にわたって続き、大小無数の滝が現れ、まさに滝絵巻と言われています。ですから近くの滝の一つや二つ巡るのは構わないのだろうと思ったのですが…..どこにも明確な案内はありません。そこへミニパトが来たのでおまわりさんに聞いてみましたが、さすがに「私たちもそこまでは分かりません」とのこと。でもせっかく来たので近くのサンショウウオセンターだけでも見学しようと、無人の料金箱に駐車料金 500 円を入れてセンターへ。受付で聞くと、散策路へは一切入れないという。やむを得ずグロテスクなサンショウウオをたくさん見て戻りました。

宿へ行くには少し早いので、どこか見学できるようなところはないか探していると、赤目市民センターを見つけました。ここなら何か情報が得られるだろうと立ち寄りました。

奈良東大寺二月堂のお水取りの松明は赤目から送っている

新緑の楽しめる場所があるか聞くと、あちこちの候補地を挙げてこのように行けば良いなどと話してくれましたが、あまり気乗りしませんでした。が、歴史に関心があるならといろいろ話を聞かせてくれました。その中で、そうなのと関心を引きつけたのが「奈良東大寺二月堂のお水取りの松明」は、ここ赤目から送っているという。私がほんとですかと聞き返すと「そこに展示している松明がそうだよ」と言う。

そこには焚き木を束にして前に二つ後ろに二つ、担いで持ち運ぶように仕立ててありました。材質は何かを聞くとヒノキだという。松も良いのだがヤニが出るから使わないそうだ。私がびっくりしていると、奈良と言ってもこの山を一つ越えれば奈良だよと言う。ニュースでしか見たことはないが、東大寺二月堂のお水取りはこの松明がないと始まらないわけで、思わぬ勉強が出来ました。観光情報を調べても出てこないけれど、赤目の町の情報発信をするにはうってつけのネタだと思いました。赤目の町は知らなくても、奈良東大寺二月堂のお水取りは誰もが知っているからです。しかし、帰ってから持ち帰ったパンフレットをよく調べてみると、小さく「松明調進行事」として770年以上続くとありました。

やはり現地でなら分かる情報は貴重なものと思いました。48滝しか知らなかった赤目は、今後は奈良東大寺二月堂のお水取り松明を調達する町として記憶されるでしょう。

明日の予定は名張藤堂家邸の見学と…

早めに宿へ入ると姫路ナンバーの車がすでに止まっていました。早速温泉に入り、ゆっくりつかることが出来ました。ジエットバスや泡風呂も利用し、こんなにゆっくりした記憶はありません。明日は名張の藤堂家邸を見学するくらいで他の予定はしていませんでした。しかし、パンフレットと地図を眺めて検討しました。帰りのコースは来た時の急坂が続く国道165ではなく、国道25の名阪国道に出て亀山ICから高速に入るコースが良さそうです。そうすると伊賀上野でお城に立ち寄って行くことで、丁度よいコースになりそうなので伊賀上野へ行くことを決めました。

夕食はとても美味しい料理で満足しました、少しのビールもことのほか旨かったです。いつもの日常とは違う体験であることが、心を満たしてくれ十分満足しました。翌朝の朝ごはんも久しぶりに白米のご飯をいただき、合わせみその味噌汁も旨かったです。ご飯のお代わりもして完食、その後コーヒーもいただき宿を出発しました。

名張藤堂家と藤堂高虎の関係は?

名張藤堂家は、藤堂高虎の養子高吉に始まります。高吉は、織田信長の重臣丹羽長秀の三男として生まれ、天正１０年本能寺の変で信長死去の後、羽柴秀吉の所望により弟羽柴秀長の養子となります。天正１６年(1585)に秀吉の命により子供がなかった高虎の養子となります。

秀吉が没すると高虎は徳川家康に味方し、慶長５年(1600)関ヶ原の戦いでは高虎、高吉ともに戦いに加わり戦果をあげます。この後高虎は伊予半国 20 万石余を拝領し今治城主となり、高吉も城下に屋敷を構えました。慶長１３年に高虎は伊賀国と伊勢のうち安濃津に国替えとなるが、高吉は家康の命により今治に残り、２万石を拝し寛永１２年(1635)伊勢国へ替地になるまでの２７年間を今治で過ごしています。高虎の死後は実子の高次が継ぐと、高吉は藩主高次の命により寛永１３年に名張に移住しました。

高吉は、かつて筒井定次の家臣が居館を構えた古城跡の高台に新しく屋敷を構えました。

名張藤堂家邸について

名張藤堂家は寛永１３年(1636)より１５．０００石を津本家より給され、11 代高節で明治維新を迎えています。現在の建物は、宝永 7 年(1710)の名張大火以後に再建されたもので、屋敷図によれば非常に複雑な造りで畳数は 1.083 畳にもなります。

明治初年に建物の大部分が取り壊されましたが、中奥、祝いの間、茶室、湯殿などの部屋と、枯山水の庭。日常生活に使用された奥向の一部と正門が残され、全国的に遺構の少ない近世武家の住まいとして貴重なものです。建物内では、武具、典籍、文書などを展示公開しています。

見学しての印象は、このような屋敷はちょくちょく見ることがありますが、お庭の土塀の外にはとても大きな木がそびえて、回りを包みこむような感じが、外の世界と遮断してとても落ち着きます。屋敷を見学した後で隣にある旧正門(太鼓門)を見てきましたが、とても重厚な感じの長屋門のようです。とても立派な門で、門を入るとやはり大きな木がそびえています。

伊賀市はどんな街

伊賀と言えばまず思い浮かぶのが伊賀忍者と松尾芭蕉、それに伊賀上野城だろう。この地域は東海地域に入っているが、文化面では元々奈良・京都とのつなが

りが強くて「伊賀は関西」と言われる。平成１６年に上野市、伊賀町など１市３町２村が合併して今の伊賀市が誕生した。人口は約 8.8000 人。

私的には伊賀市というよりは、伊賀上野市というのがしっくりきます。そんな伊賀市ですが今回初めて知ったのは「上野天神祭のダンジリ行事」です。国指定無形民俗文化財で平成２８年(2016)には「山・鉾・屋台行事」３３件のうちの一つとして、「上野天神祭のダンジリ行事」がユネスコ無形文化遺産に登録されています。岸和田のダンジリは知っていましたが、伊賀上野のダンジリは知らなかったです。
と、言うことで伊賀上野城とダンジリ会館を見学しました。

白亜三層の天守閣が優美なお城

小さな盆地の伊賀の国は、「忍者の里」とも言われ、その中心は上野の城下町です。町の北部の高台には白亜三層の天守閣が優美、端麗な姿を誇り、「白鳳上」とも呼ばれ親しまれています。

天正１３年(1585)筒井定次が三層の天守を築きました。関ヶ原の戦いに勝った徳川家康は慶弔１３年(1608)定次を改易した。同年、伊予今治城主だった藤堂高虎が伊賀・伊勢安濃津の城主となった。高虎は今までの城を西に拡張し、豊臣方に備えて高さ 30m の石垣を築いた。しかし、竣工直前の五層の大天守は暴風のため倒壊。その後幕府の城普請禁止により再建されることはなかった。

現在の天守は、昭和１０年(1935)に地元出身代議士の河崎克氏が私財を投じて純木造の復興天守を再建したもので、名称を「伊賀文化産業城」としました。
天守の中はまさに博物館で、高虎の坐像をはじめ様々な武具が展示されています。そして、河崎克氏の説明はもちろん、このお城の構造図もあり全国のお城の写真も展示されています。これらをしっかり見ておりますと一日でも足りないでしょう。

最上階からは伊賀市の街並みと山々が一望のもとに眺められ、素晴らしいロケーションです。近くでは屋根が特徴的な、芭蕉の俳聖殿が緑の森の中に浮かんでいるのが眺められます。

天守の見学後は城の西側に向かいお濠と高石垣を見学しました。手すりの無い場所なので台地の端には足を置かないようにして、お濠を覗き込みます。そそり立つ石垣と、お濠周りの松の木をはじめとする緑はとても美しい光景です。そこから目を上にやれば、遠くの山並みがこれも背景として素晴らしいの

一言に尽きます。

だんじり会館の見学

駐車場から目と鼻の先に、それと分かる建物が「だんじり会館」です。車はそのままにして会館に向かいました。入場料はお城と同じく 600 円でした。

「だんじり」は上野天神祭に繰り出す、京都祇園祭の山鉾の形態を模した囃子屋台です。9 基のだんじりがあり、この会館には常に印(しるし)と桜車の実物を 3 基ずつ展示しています。印は神の依り代と考えられており、それを後ろから囃子屋台である太鼓台や桜車が囃し立てるというものです。

立派な屋台が 9 基もあることは、この地域が豊かであったことにほかなりません。とても素晴らしい文化・芸術と、地域の和が感じられます。現代よりも昔は地域の祭りが盛大で、華やかな物であったこ

とが今に引き継がれています。私たちの近くでは亀崎の潮干祭がこれに相当するものでしょう。

上野天神祭の歴史

1660 年　天神祭礼が再興される
1690 年　このころ鬼行列のうち「役業者列」が始められる
1756 年　各町でだんじりが造られる。当時は山鉾、台尻・壇尻と呼んだ
2002 年　ダンジリ行事が国重要無形民俗文化財に指定される
2016 年　「山・鉾・屋台行事」33 件のうちの一つとしてユネスコ無形文化遺産に登録される

今回の名張市と伊賀市の散策は思いのほか有意義なものになりました。帰りは名阪国道に出て、亀山から高速に乗って帰りました。